

## ミクロネシア連邦ポンペイ州の小学校における生活習慣病予防に関する健康教育の実施状況

新潟医療福祉大学看護学科  
小林房代, 塚本康子

【背景・目的】世界の成人肥満人口は10%を超え、肥満率上位10か国には大洋州の8か国が入っており、いずれも生活習慣病が死因の1位となっている<sup>1)</sup>。ミクロネシア連邦ポンペイ州でも肥満対策は喫緊の課題とされてきたが、生活習慣改善の行動変容は成人期では容易ではなく、成果がみられていない。WHOでは、幼年期への投資は一世代で健康の不公平を低減することに最も可能性を与える方法である、と包括的学校保健を推進している。これらを受けて、ミクロネシア連邦ポンペイ州では、2009年に「健康教育カリキュラム枠組み」（以下枠組みと称す）を作成した。

枠組みを使った健康教育の実施状況と学校保健担当者および教員の健康教育に関する認識を明らかにする。

【方法】ポンペイ州保健局公衆衛生課および教育局の学校保健担当者6名、公立小学校教員3名を対象としてフォーカス・グループ・ディスカッション（以下FGD）を実施した。ファシリテーターは、保健局公衆衛生課予防接種係長が務め、テーマ①枠組みを認知し、正しく十分に実施されているか ②学校で健康教育をする必要性 ③健康教育の実施に際して、難しい点、必要な支援や協力 ④健康教育を効果的・効率的にするには何が必要か ⑤その他の学校保健（健康診断、歯科検診・治療、予防接種、学校環境衛生など）について自由に討議した。

【結果】FGDは録音し、逐語録を日本語に翻訳、安梅氏のヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法<sup>2-4)</sup>に基づいて内容分析をした。（表参照）

テーマ	重要カテゴリー
①枠組みを認知し、正しく十分に実施されているか	・枠組みを初めて見た、知らない ・全学校に配布され、全教員へ配布された ・教師用リソース・マニュアルの存在 ・教員向けワークショップの実施 ・教案の存在は、正しく実施されていることの実証
②学校における健康教育の必要性	・学校の健康教育は本当に必要 ・健康教育はまず家で始める、次に学校で教える ・両親も重要 ・地域が先生になる
③健康教育を行うときに難しい点	・良いリーダーと良い管理者 ・実施状況をチェックするプログラムが重要 ・授業に健康教育の専門家が導入

テーマ	重要カテゴリー
	・共同作業の報告のための教案作成 ・生徒全員が参加する身体活動と身体運動のカリキュラムの存在 ・プログラムを続けるには引継ぐ人が必要
④効果的・効率的を行うために、何が必要か	・リソース素材はいつでも手に入る ・聴診器、体重計、身長計が不足 ・バレーボール、バスケットボールが不足 ・肥満の子どもをモニタリング
⑤その他	・学校で身体検査をするよう奨励しているが、身体運動させる法律はない ・健康教育は、まず家族の中から始める

表 フォーカス・グループ・ディスカッション分析結果

FGDの分析から、枠組みを作成した教育局学校保健担当者と1人の教員は、枠組みの全教員への配布、リソース・マニュアルの存在、ワークショップの実施を語ったが、保健局学校保健担当と2人の教員は知らなかった。

健康教育の必要性は全員が認め、家庭、地域の重要性を語った。実施の際に困難な点は、良い管理、実施状況をチェックするプログラムなどで、必要とする支援は、専門家の導入、教案、引継ぐ人、肥満の子どものモニタリング、身体運動させる法律、機材であった。

【考察】FGDの結果から、枠組みを使った健康教育が実施されているかを明らかにするために、現任教員の健康教育の実施状況、リソース・マニュアルの活用状況、ワークショップの理解度を明らかにする必要がある。

また教員が必要としている支援について、家庭、地域の役割と現状、学校の体制、予算、教員の認識を明らかにする必要があると考える。

【結論】現任教員の健康教育の実施状況を明らかにし、求めている支援の内容を明確にして、健康教育を効果的・効率的に実施するための具体策を検討するために、全教員を対象にした調査が必要である。

### 【文献】

- 1) WHO: World Health Organization - NCD Country Profiles, 2011.
- 2) 安梅勲江: ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法 科学的根拠に基づく質的研究法の展開. 医歯薬出版株式会社, 2007.
- 3) 安梅勲江: ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法II/活用事例編, 科学的根拠に基づく質的研究法の展開. 医歯薬出版株式会社, 2007.
- 4) 安梅勲江: ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法III/論文作成編. 科学的根拠に基づく質的研究法の展開. 医歯薬出版株式会社, 2010.